

(8) 過去4年間の研究とその成果

(8) 過去4年間の研究主題

- ・平成29年度(2017年度)

「主体的・協同的な学習活動で考える力をつける教育課程の創造」

～自らの考えを持てる子どもの育成を目指して～

- ・平成30年度(2018年度)

「主体的・協同的な学習活動で考える力をつける教育課程の創造」

～思考を表現する言語活動を通して深める学び～

- ・平成31年度(令和元年度)(2019年度)

「主体的・協働的な学習活動を通して、考えを深めていく

授業の創造」～考えを広げ深めていくための言語活動を軸とした授業づくり～

- ・令和2年度(2020年度)

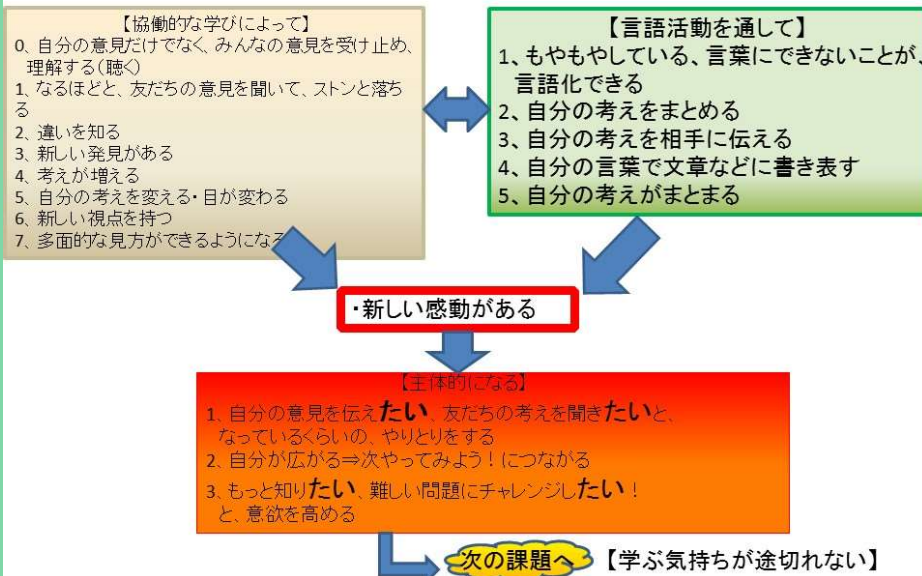
「主体的・協働的な学習活動を通して、表現する力を磨く

授業の創造」～授業間を効果的につなぐ家庭学習の在り方～

(8) 過去4年間の研究概要と成果

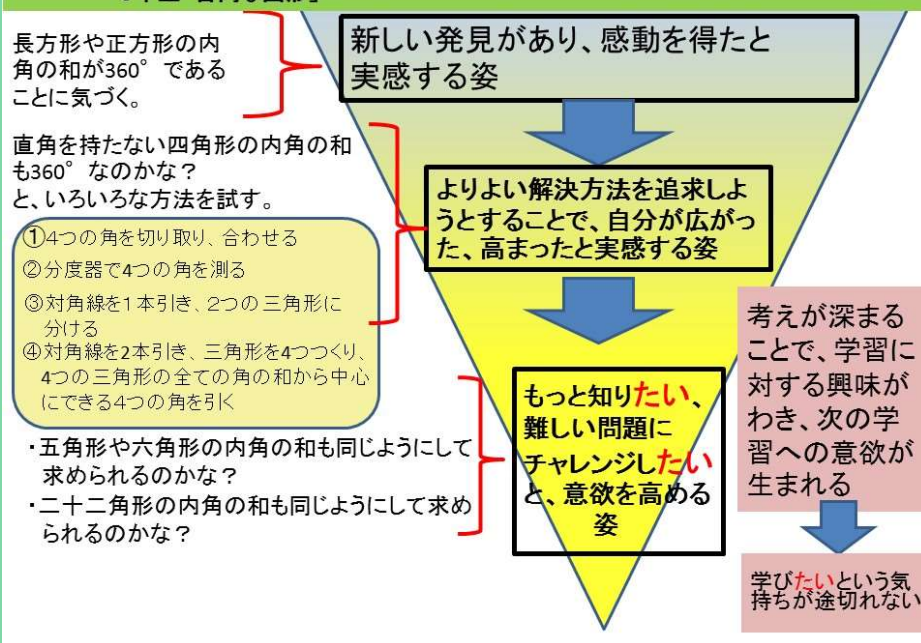
本校教育では、児童の主体性を第一に考え日々の授業に取り組んできている。児童自身が学びに対して主体的に関わり続け、思考を深めることで、本校教育目標である、「新しいものを創り出そうとする子ども」を育むことになると考えるからである。

2018年度研究で明かになった、 思考を深める子どもの姿の分類整理



《図1》

2018年度研究で明かになった、子どもの思考が深まっていく具体例 5年生「合同な図形」



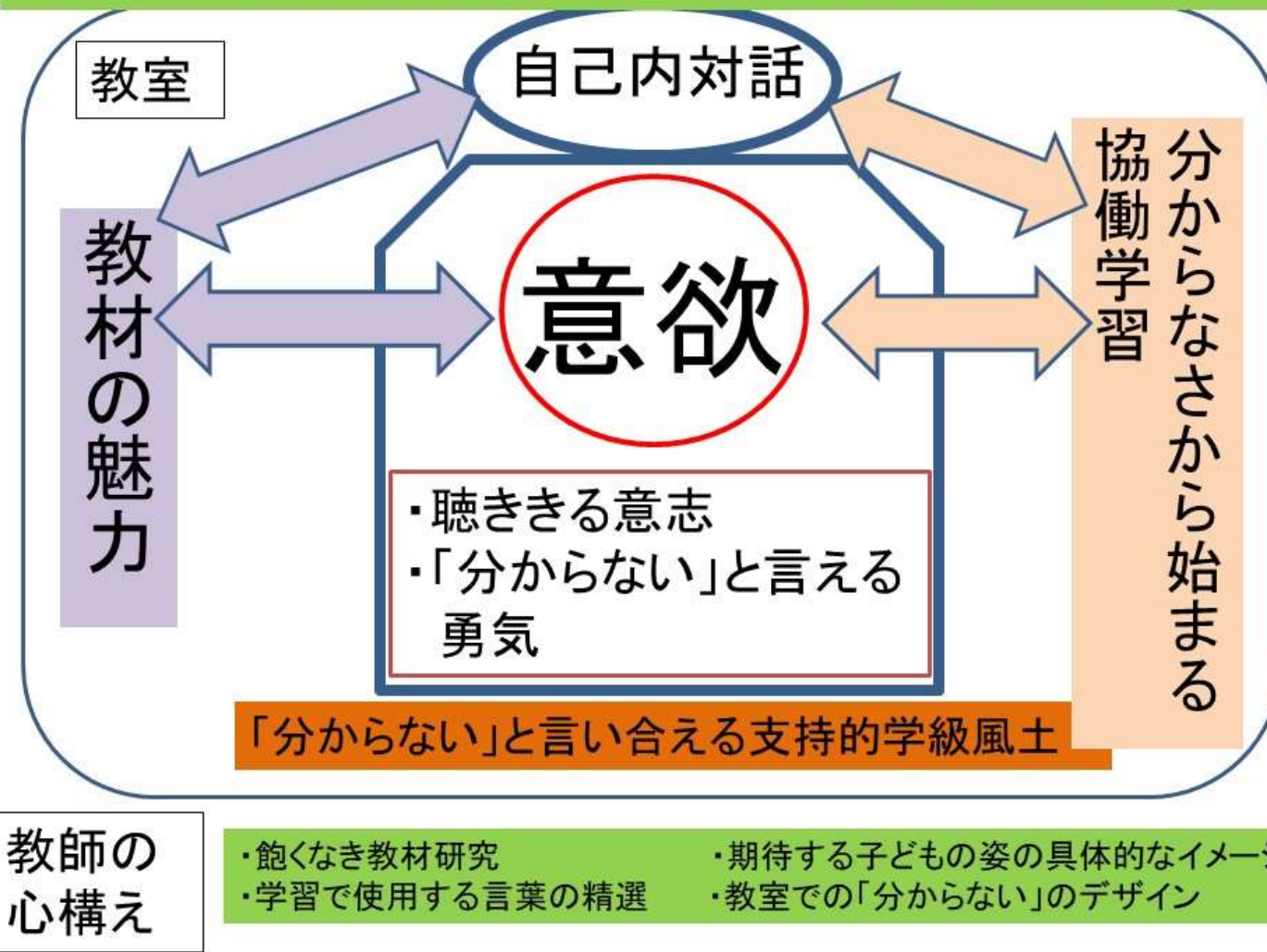
《図2》

2018年度の研究では、思考を深めるためには、子どもたちの“学びたい”という気持ちが途切れることなく継続することで、次の学びへと繋がっていくことが明らかになった。《図1》《図2》

(8) 過去4年間の研究概要と成果

翌年2019年度の研究では、子どもの“学びたい”という気持ちを高めたり、持続させたりするために必要なことが、以下《図3》のように明らかになった。

2019年度研究で明らかになった、子どもの“たい”を引き出すための学習環境のつながり



これらは全て、個人の学習に対する意欲を引き出すための手立てと、捉えることができる。

この途切れない意欲の連続から生み出される個々の学びによって、子ども達は自ら学びを更新し、広げ深めていくことで、「賢さ」が育まれていく。

《図3》

(8) 過去4年間の研究概要と成果

2020年度の研究では、以下のことが明らかになったこと

- ジョイント学習は、授業と授業をつなぐだけでなく家庭と学校をもつなぐことができる。
- ジョイント学習の色々な形態とその汎用性。
 - ☆内容を比較し読み取りを深めることで、次時以降の学習で主題に迫れるようにする。 (授業者:熊谷直樹)
 - ☆本時の主題を事前に考えさせ、いろいろな意見から主題に戻る。 (授業者:今村有里)
 - ☆本時後半に主題に迫れるよう活発な話し合いを行う。 (授業者:山下てり)
 - ☆動作化などの活動時間を確保し、表現力を磨く。 (授業者:八田真範
伊藤康子)
 - ☆クラスの全員が自信を持って発表できる環境を整え、クラスへの所属意識を高める。 (授業者:梶本翔子)
 - ☆発展的な学習内容の前段階として、家庭でじっくり問題を考えることで、その足がかりとする。(授業者:今井勇太)

(8) 過去4年間の研究概要と成果

2020年度研究で明らかになった【ジョイント学習】の形態

八田スタイル(国語科)

1: 導入	5分
2: 交流・指示(全体)	10分
3: 活動(グループ) 《短冊に気持ちを書く》	15分
4: 交流(全体)	10分
5: まとめ振り返り	5分
6: 次のジョイント課題	

山下スタイル(国語科)

1: 導入(音読含む)	5分
2: 交流1(全体): 10人	10分
3: 交流2(全体)《撃たれても良かった? 撃たれなくなかった?》	10分
4: 交流3(全体) 《兵十はごんに何と声をかけた》	10分
5: まとめ, 振り返り	5分
6: 次のジョイント課題	5分

伊藤スタイル(国語科)

1: 導入	5分
2: 交流(全体): 11人	10分
3: 思考(全体)《しなくちゃいけないこと》	10分
4: 活動(全体)《読み方・動作化》	10分
5: 振り返り, 次のジョイント課題	10分

今井スタイル(算数科)

1: 導入	5分
2: 交流(全体)《課題2つ》	20分
3: 思考(個)⇒(グループ)	10分
4: まとめ, 振り返り	10分

熊谷スタイル(国語科)

1: 導入	5分
2: 交流1(グループ)	10分
3: 交流2(全体)《1場面》	10分
4: 交流3(全体)《4場面》	10分
5: まとめ, 振り返り	10分

梶本スタイル(国語科)

1: 導入	2分30秒
2: 交流1(全体): 31名	24分
3: 交流2(全体)《》	10分
4: まとめ, 振り返り	8分30秒

今村スタイル(国語科)

1: 導入(音読含む)	5分
2: 交流(全体)12人	14分
3: 交流(全体)	20分
4: まとめ, 振り返り 次のジョイント課題	6分

【ジョイント学習とは】(2020年度校内研より)

授業開始5分で対話に入り、45分間の授業時間の多くの時間を対話に使う授業スタイル。対話する時間、表現する時間が確保できれば、表現力は自然と磨かれるはずである。

対話時間の確保により、その学習内容の価値や、学習に向き合うことで得られた成果が常に個々の子どもたちに結果として返される。

これは、自分の考えを話したり、聴き合ったりする中で、自己の思考がどんどん深まり、洗練されていく。このことによって、子どもたちは、本校教育目標の具体目標である、【対話を重ね賢く育つ子ども】を目指す。

また、ジョイント学習は、そのために各学年で考え抜かれた最適な家庭学習とセットであり、それは、単元計画にも組み込まれる。

さらに、【ジョイント学習】では、授業と授業を繋ぐだけでなく、親子同士を繋ぐものでもありたい。全ての家庭学習においてというわけにはいかないが、予習内容を親子で考えることで、これまでにはなかった、親子の会話が生み出されることを期待する。

学校では、家庭学習で予習を行ってきた児童たちが授業において自らの考えを表現し合うことでさらなる考えの深まりを期待する。

【ジョイント学習】 単元モデル(例)

《45分×3時間の場合》

これまでの一般的な授業の流れ

単元1時間目

- 1: 導入 10分
- 2: 思考 15分
- 3: 交流(グループ) 10分
- 4: 交流(全体) 5分
- 5: まとめ, 振り返り 5分
- 6: ドリルなどの
家庭学習(復習)

単元2時間目

- 1: 導入 10分
- 2: 思考 15分
- 3: 交流(グループ) 10分
- 4: 交流(全体) 5分
- 5: まとめ, 振り返り 5分
- 6: ドリルなどの
家庭学習(復習)

単元3時間目

- 1: 導入 10分
- 2: 思考 15分
- 3: 交流(グループ) 10分
- 4: 交流(全体) 5分
- 5: まとめ, 振り返り 5分
- 6: 予習プリントでの
家庭学習(復習)

導入
30分

思考
45分

交流
45分

振り返り
5分

導入
30分

思考
15分
+α

交流
75分

振り返り
25分

【ジョイント学習】

単元1時間目

- 1: 導入 10分
- 2: 思考 15分
- 3: 交流(グループ) 10分
- 4: 交流(全体) 5分
- 5: まとめ, 振り返り 5分
- 6: 予習プリントでの
家庭学習

単元2時間目

- 1: 導入 5分
- 2: 交流(グループ) 10分
- 3: 交流(全体) 20分
- 4: まとめ, 振り返り 10分
- 5: 次の課題(次時)
への導入 5分
- 6: ドリルなどの家庭学習(復習)
予習プリントでの家庭学習

単元3時間目

- 1: 導入 5分
- 2: 交流(グループ) 10分
- 3: 交流(全体) 20分
- 4: まとめ, 振り返り 10分
- 5: 次の課題(次時)
への導入 5分
- 6: ドリルなどの家庭学習(復習)
予習プリントでの家庭学習

